

# 立命館大学・神奈川大学 21 世紀 COE プログラム ジョイント・ワークショップ

## 「歴史災害と都市—京都・東京を中心に—」開催の趣旨と内容

The 21st Century COE Program of Ritsumeikan University and Kanagawa University, the Significance and Contents of Joint Workshop "Historical Disaster and Cities: Case Studies of Kyoto and Tokyo"

立命館大学 21 世紀 COE プログラム 吉越 昭久  
YOSHIKOSHI Akihisa(Ritsumeikan University 21st Century COE Program)

神奈川大学 21 世紀 COE プログラム 北原 糸子  
KITAHARA Itoko(Kanagawa University 21st Century COE Program)

The 21st Century COE Program of Ritsumeikan University and Kanagawa University held the joint workshop about "Historical Disaster and Cities" in Yokohama in August, 2006. The target time is from the historical age to the present. Moreover, the target cities are mainly Kyoto and Tokyo.

Since the mutual details of research and mutual methodology were found well and the problem of research of it was also found, we think that the joint workshop was successful.

2003 年度の 21 世紀 COE プログラムに、立命館大学は「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」を、神奈川大学は「人類文化研究のための非文字資料の体系化」をテーマに申請した結果、それぞれ採択されて今年で 4 年目を迎えている。両大学の各プログラムの成果については、報告書類やニュースレターなどを通して公表されているので、詳細はそれらに譲ることにする。

最初に、今回のジョイント・ワークショップが実現するまでの経緯について、簡単に触れておきたい。2004 年 11 月 16 日に、立命館大学において 21 世紀 COE プログラムの第 3 回歴史都市防災シンポジウムが開催された。そこに北原が招かれ、「写真以前（近世）と写真以後（近代）—災害イメージはいかに変化したか—」というタイトルで招待講演を行ったことがある。これが直接的なきっかけになり、その後研究交流が開始されたが、歴史災害の分野を中心に二つの大学が共同でシンポジウムを開催してみたいという話がでるようになった。このような背景があって、2005 年あたりからこの企画が具体化していった。

しかし、当初は多少のとまどいがあったことは事実である。まず、二つのプログラムが看板に掲げる研究テーマが大きく違っていることであった。端的にいえば、立命館大学のテーマは文化遺産の防災であり、神奈川大学のそれは非文字資料の体系化である。しかし、研究内容には重なる部分があった。立命館大学には、京都における歴史災害を研究しているメンバーがいるし、神奈川大学には、「環境と景観の資料化と体系化」を進める班があり、そこに歴史災害の研究メンバーがいる。このため、歴史災害の分野に関して、共同で研究を行う基盤があることがわかり、この課題は解決した。

もう一つのとまどいは、研究対象地域の違いであった。立命館大学では、プログラムの研究対象を前述のように京都に絞っていた。これに対して、神奈川大学の研究対象地域は日本（とりわけ、関東）に限らず世界に広がっている。これは単なる地域の違いだけでなく、研究の関心から方法論の違い、対象時期の相違までを含むことを意味する。この課題は、すぐには解決できるものではないために、試行錯誤的に一度進めてみることで最終的な解決を将来の課題とした。

当初は「歴史都市と防災」をテーマに、京都と東京（江戸）との比較研究を行い、横浜で開催するという骨子を企画の準備を始めた。また、その形式も、発表だけでなく討議などにも重点をおきたいという狙いからシンポジウムではなくワークショップにすることとした。京都は主に立命館大学が、東京は主に神奈川大学が担当するようにした。対象とする時代も特に絞ることなく、歴史時代から現在までを扱うことを決めた。聴衆として想定したのは、歴史災害の研究者だけでなく、災害や防災に関心のある一般市民も含めることにした。

立命館大学には、前述のプログラムの他に、吉越の所属する文学部人文学科地理学専攻では、このプログラムの他にもう1件、アート系の21世紀COEプログラムに関わっていて、そこに数名のスタッフが加わっている。彼らは、GISや過去から現在までの景観をバーチャルリアリティとしてとらえる研究を進めていたので、このジョイント・ワークショップに加わってもらうこととした。神奈川大学では、21世紀COEプログラムのメンバーの他に、北原と研究上でつながりのある者を中心に人選が行われた。その後、演題を調整していく過程で、防災については実質的に扱われていないことがわかったので、ジョイント・ワークショップのテーマを「歴史災害と都市」に変えることにした。

以上のような経過で、ジョイント・ワークショップの具体案が確定した。当日の発表内容については、各演者によって執筆され、この報告の次頁に掲載しているので御覧いただきたい。

ジョイント・ワークショップでは、演者による研究発表だけでなく、討論にも時間をかけたため、お互いの研究の体系や方法論が十分に理解できただけでなく、それぞれの研究の課題も浮き彫りにされた。このため、今後の研究の指針や方向性についても明確にすることができた。

今回のジョイント・ワークショップは、初めて21世紀COEプログラムとして二つの大学が共同して歴史災害について発表の場をもったことと、今後の研究の方向性を明確にできた点で、大きな成果をあげたといえる。このような形の研究交流には大きな意義があり、近い将来に、再び実現できることを期待している。

今回のジョイント・ワークショップは、我々オーガナイザーだけでできたのではなく、演者、両大学の事務局など多くの方々の協力に支えられて初めて可能になったものである。関係した方々全てのお名前をあげることはしないが、御協力に心より感謝申し上げたい。

1. 開催日程：2006年8月26日（土）・27日（日）
2. 開催場所：クイーンズタワー A 5階会議室  
〒220-6014 横浜市西区みなとみらい 2-3-1

3. プログラム

26日 13:00～17:00

開会の辞 吉越 昭久（立命館大学）  
趣旨説明 北原 糸子（神奈川大学）  
挨拶 村橋 正武（立命館大学 21世紀 COE プログラム拠点リーダー）  
挨拶 福田 アジオ（神奈川大学 21世紀 COE プログラム拠点リーダー）

I 都市の歴史と災害復元

平安京の地形環境と災害 河角 龍典（立命館大学）  
平安京の祭礼と災害 片平 博文（立命館大学）  
公家町の火災と防災 冷泉 為人（財冷泉家時雨亭文庫）  
—禁裏（仙洞・大宮）御所をめぐる—  
近世京都の火災と復興 鈴木 栄樹（京都薬科大学）  
—嘉永7年の大火と安政内裏造営期の京都—  
3次元でみる京都の景観と災害 中谷 友樹（立命館大学）

27日 10:00～11:30

II 関東大震災と社会

関東大震災の写真と地図のデータベース 諸井 孝文（鹿島建設）  
北原 糸子（神奈川大学）  
関東大震災時の救援 鈴木 淳（東京大学）  
関東大震災後における社会の変容 佐藤 健二（東京大学）

27日 13:00～14:30

III 歴史災害と現代

絵画を利用した防災 林 能成（名古屋大学）  
—三河地震を素材として— 木村 玲欧（名古屋大学）  
文化財と災害痕跡 桂 雄三（文化庁）  
日常のなかの災害認識 香月 洋一郎（神奈川大学）

27日 14:40～16:40

4部 討論

閉会の辞 吉越 昭久（立命館大学）

\* 会場にてPCでデータベース公開：「名所江戸百景と江戸地震」「ハザードマップ」  
なお、以上のタイトルは発表段階のものであるため、本報告書の内容・タイトルとは若干異なっている。